

【要旨】

「金融で地域を支えることが出来るか、金融で地域を振興することが出来るか」

本稿は、2013年4～7月に信州大学経済学部で開講された「現代経済学特講Ⅱ」の講義記録である。講義の中で、金融機関からは、地域に貢献したいという熱い思いが語られたが、これらに対し、金融機関利用者や公的部門からは、一部金融機関を評価する声も聞かれたが、更なる地域貢献を期待する声の方が多かった。

金融機関に求められている役割は、単にお金を貸し借りすることだけではなく、地域経済に精通している地域金融機関のアドバイスやコーディネートといったソリューション機能である。講義で話されたグリーンファンドの組成や証券会社のアレンジメント機能はそのヒントになるものであり、「金融のつなぐ力」や「住民・企業・行政の間の歯車」の話も非常に含蓄のある提言であった。

今の時代は、従来の経済・金融構造の延長線上の議論ではなく、斬新で抜本的な構造改革の発想が強く求められているのではないだろうか。

【Abstract】

"Can you support the region by finance or can develop the region by finance? "

This paper is lecture record of "Topics in Contemporary Economics II" of the Faculty of Economics, Shinshu University, a course of was opened by the theme in 2013 April ~ July.

Although the ardent desire to contribute to the region from a financial institution was expressed in the lecture, the voice which evaluates a financial institution in part was also heard from the financial institution user or the public sector to these, but there was more voice which expects the further local contribution.

The role for which the financial institution is asked is a solution function called advice and a coordination of the regional financial institution well versed not only in lent and borrowing money but regional economy. The composition of a green fund and the financial arrangement by a securities company in which it talked at the lecture become the hint, and it was a proposal in which the talk of "the power which finance connects" and "the gear among a resident, a company, and administration" also has an implication very much.

Probably, the present time is called on not for the argument on the extension of conventional economy structure and financial architecture but for the way of thinking of fresh and radical structural reform.

はじめに

本稿は、「金融で地域を支えることができるか 金融で地域を振興することができるか」をテーマに 2013 年 4~7 月に開講された信州大学経済学部の 2013 年度前期科目「現代経済学特講II」(以下、「本講義」という)の講義記録である。

「現代経済学特講II」という講座は、従前から金融体系の理解を深めるため継続的に開講されているものであるが、2013 年度については、新たな試みとして、担当教員である筆者が、初回に金融と地域振興の関わりについての基本的な理論を講義した後、金融機関を利用する立場、金融機関自身、公的部門の 3 者を代表する方々を外部講師としてお招きし、地域経済の現場におけるそれぞれの取組みについてお話いただいた。

また、最終回には、外部講師のうちの数名の方にパネラーとして再登場していただき、受講生である学部生も混じえてパネルディスカッションを開催し、金融機能を使った地域貢献について、有意義な意見交換を行った。

本講義の最終的な成果を確認するため、受講生に「自らが考える地域振興策」を期末課題として出題したが、学生らしい自由で新鮮なアイデアが飛び出し、本講義が金融機能を利用した地域振興策の考察に一定の役割を果たしたものと自負している。

具体的な講義内容は、以下のとおりである。

〔第一グループ〕金融機関利用者等

- (1) 4/16 長野県の経済情勢と課題
(長野経済研究所 小澤吉則調査部長)
- (2) 4/23 グリーン・ファンドからの地域振興策
(おひさま進歩エネルギー 原亮弘社長)
- (3) 5/14 金融機関利用者の声
(松本商工会議所 野畑吉永中小企業振興部副部長)
(つれてってカード協同組合 桐生肇副理事長)
(長野県中小企業団体中央会中信事務所 緩詰哲男所長)

〔第二グループ〕金融機関サイド

- (1) 5/21 地域金融機関の役割
(八十二銀行 小松哲夫常務取締役)
- (2) 6/4 協同組織金融機関としての地域振興策
(松本信用金庫業務部 横山俊一業務推進兼業務企画課長他)
(長野県労働金庫 市川育雄専務理事他)
- (3) 6/11 地元証券会社としての地域振興策
(野村証券 廣川隆雄松本支店長)
- (4) 6/18 農業に対する地域振興策
(松本ハイランド農業協同組合 高山拓郎専務理事)
- (5) 7/2 地元政策金融機関としての地域振興策
(日本政策金融公庫 石井邦明松本支店国民生活事業統轄)
(商工中金 池田達哉松本支店長(現監査部))

〔第三グループ〕 公的サイド

- (1) 4/30 中央銀行としての役割
(日本銀行 松下顕松本支店長)
- (2) 5/28 中小企業再生機関の役割
(中小企業再生支援全国本部 野田勝也プロジェクトマネージャー)
- (3) 6/25 金融監督当局からの観点
(関東財務局理財部 北川真金融監督官)
- (4) 7/9 長野県の地域振興策
(日本経済研究所地域未来研究センター 大西達也副局長)
- (5) 7/16 地方公共団体としての地域振興策
(長野県 太田寛商工労働部長)

〔パネル・ディスカッション〕

- (1) 7/23 パネラー
(中村聡志日本政策投資銀行地域企画部企画審議役)
(原亮弘社長)
(小松哲夫常務取締役)
(廣川隆雄松本支店長)
(信州大学経済学部経済学科 宮澤友一郎)
(信州大学経済学部システム法学科 清滝葵)
コーディネーター
(信州大学経済学部教授 西山巨章)

外部講師は上記の方々であったが、講師就任にあたっては、本講義の趣旨にご賛同いただき、それぞれの業務について、受講生に対し、かなり踏み込んでお話しいただいたことを深く感謝する。

今後、地域振興を考える上で、本講義が最終到達点となるものではなく、逆にこれがきっかけとなって、金融機能を活用した地域振興に対する考察が更に深まり、従来型の行政主導の金融システムではなく、地域主導の新たな金融の姿が見出されることを期待したい。